Tilapia mossambicaの海水中における繁殖

1. 目　　的

T. mossambicaを１０ｔコンクリート水槽２面を用いて、海水中で繁殖させてその種苗生産量を測定した。

2. 材料と方法

４月１７日、No.１〔♂１１（$\overline{wt}$.45ｇ）：♀２４（$\overline{wt}$.25ｇ）〕、No.２〔♂１０（$\overline{wt}$.37ｇ）：♀２８（$\overline{wt}$.19ｇ）〕を各々１０ｔコンクリート水槽に収容し海水流水式にて飼育した。取上げは８月に行ない、親魚体重・種苗総数・種苗重量を測定した。

3. 結果と考察

１０ｔコンクリート水槽に収容したときには水温はすでに２２℃程で卵を口腔内哺育している個体もみられた。稚魚が始めて出現したのは５月１１日で水温は２４℃を越えていた。その後稚魚を哺育中の雌が多くみられるようになり取上げ時まで継続した。稚魚は６月中旬には３cm位に達して、コンクリート壁の附着物を括発に摂餌するようになった。この頃からは配合餌料もよく摂餌するようになった。８月の取り上げ時には、No.１で種苗数947、重量4.9kg、No.２では種苗数748、重量5.2kgであった。取り上げ時頃にも、産卵哺育行動はみられたが、小さい個体はほとんどみられなかった。このことは、実験開始当初にふ化し成長した稚魚が、その後ふ化して来る稚魚を摂食してしまうことによると思われる。

以上のようにT. mossambicaの海水中における繁殖は正常に行なわれたものと思われた。